

## なぜ「ムツレ」なのか



NPO青空保育たけの子

4月28・29日の2日間森のムツレ全国シンポジウムが、「森のムツレが生きる社会」をテーマに、山形県飯豊市飯豊自然の家で森のムツレ協会と青空保育たけの子が主催団体となって開催されました。

講師や一般参加者総勢80名の方に参加いただき、NHK山形放送でもその様子が放送され、参加者はじめ、各方面より好評価をいただくことができました。ひとえにスタッフや飯豊自然の家の皆様、そして支えてくださった全ての方々のおかげです。心より感謝申し上げます。

その中で繰り返し語られたのが、「なぜムツレなのか」ということです。

## ◇森の妖精「ムツレ」誕生

「ムツレ」とはスウェーデン語で「土壌」を意味します。命を育む土ということですが。化学物質で汚染されていない、豊饒な土、それが「ムツレ」です。

ムツレは、ある日突然、森の中に生まれます。森の生き物達は、ムツレのために、自然物で洋服を作ります。ムツレ自身も白樺の木の皮で帽子を作り、鳥の羽を飾ります。そして、おしりにしっぽをつけます。それで森を掃除するためです。ただ、足元は裸足。そこで、親切な姉弟から皮の靴をもらいます。これが人との関わり初めとなり、わたし達を森に案内するきっかけとなるのです。

## ◇なぜ「ムツレ」なのか

よく聞く質問です。

「日本なのに、なぜわざわざスウェーデンで作られたキャラクターなのか。日本人にはなじまないのでは」正直、わたしもそう思っていました。でも、今回のシンポジウムでわたしなりに理解できました。

日本人の自然との付き合い方はほとんどの場合「畏れ」の伝承です。それは子どもを守るためには仕方ないことだったのだと思います。そして、昔話に出てくるのは優しいおじいさんとこわいおばあさん。わたしは、おばあさんには家に帰ってもたくさんの手仕事があり、もしかしたら、遊んでくれるのはおじいさんだったのかもしれないと勝手に思っています。

わたしは現代において大切なのはむしろ「畏れ」ではなく、「自然は友達」ということだと思います。

自然破壊が進み、わたし達は自然の恩恵を受けることがどんどん難しくなっています。自然を無理やり管理し、コントロールしようと思っても、完全にできるものではありません。

今、子ども達に教えるべきこと、感じてもらいたいことは、「自然は友達」ということです。危険・危険とやみくもに教えてばかりいては、持続可能な社会などほど遠いものになります。自然を敵視する風潮を子どもたちの中に植え付けてしまえば、なぜ、それを守ろうとするでしょうか。自然が敵であれば、それを排除しようとはします。そうではなく、友達だから、守ろう、守りたい、ずっと一緒にいたいと思うことが大切なのではないでしょうか。

## ◇ムツレというキャラクター

日本人はとても柔軟で、世界のあらゆる習慣や文化を自国のものとして発展させてきました。

キャラクターにしても、ディズニーはその際たるものです。

日本に、環境をテーマにし「自然は友達」というキャラクターがない以上、ムツレは子どもたちにとって、受け入れやすいキャラクターであるとわたしは思います。

現に子どもたちと散歩をしている時、自らゴミを見つけて拾い、「ムツレさん喜ぶ？」と言っています。

「ゴミは捨てないで」とただ言うよりも、何倍も効果的です。

## ◇広がりをもせるムツレ

ムツレには他に3人の妖精の友達がいます。高山にすむフェルフィーナ、川に住むラクセ、宇宙からやってきたノーヴァです。

特に今、ラクセが伝えようとしているメッセージは重要です。わたしたちの命の水が汚染され続けているからです。

わたしはこれからも、ムツレ達が伝えようとしているメッセージを届けていきたいと思っています。



© Eva Rönnblom